

# みんなの居場所

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面も、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年12月19日(金)

### 徒然「学力と読書」

ある子どもがこんなことを言っていた。「私は国語よりも算数が得意」「その子の実態を見てみると確かに単純計算の問題はよく解けている。正解はかりだ。実態を確認してついでに、文章問題はこことここ間違っているではないか。中には我々もよく書いていない回答欄もある。これは何を意味しているのか。」

これまでの経験則からの見解を述べる。このような実態に起因するものは「読解力不足」としてこれによる「読解力の低下」である。前述の実態は、文章問題の題意が理解できず、そもそも「何が問われているのか」「何を答えていいのかが解らないのである。当然、問題文の中から、あるいは与えられた資料のどの部分をどう活用するのかが分かります。そんな中で、解こうとする意欲さえなくなり、「長い問題文」を「見た」だけで投げ出してしまっている。

学習には文章理解が重要だ。どんな学習にも文章を読むという活動があり、そこから手掛かりを探し出す。つまり、「読解力」が必要なのだ。そして、自分の考えを回答欄に書く、すなわち「表現力」(アウトプット)も必要だ。学力の一般的なスケールに数値としてあらわすためには、「読解」と「表現」がセットで必要なのである。これを身に付けるには、やはり「質の高い読書」が必要なのではないかと考えている。

### 子どもを教える者としての仕事とは

保護教師としての「永遠のテーマ」的な見出しになってしまいましたが、そもそも「教育」って何?、という疑問について教える者の教師達で考える時間がありました。

多くの考え方が出されましたが、私の考える「教育」とは「将来の継続的な成長のために少しずつ『無理』をかけること」です。この「無理」が必ずしも重要で絶対条件として少し頑張れば達成される「無理」を継続させることに意味がある。

「無理」保護者の皆様はご承知です。こんな時どうしますか?。ある課題に取り組んでいる途中、「お母(父)さん、まだやるの?」と聞いてきたことがあります。私の答えは「うん。早く頑張ったね。じゃあ次はここ頑張ろう」という。もう少し進めてみようか。という。つづいて「ユアンスの言葉かけをします。努力の継続と課題達成の成就感を味わわせるために、非常に重要な場面だと思っています。皆様はご指導をいただけますか?。

冬休み明けから6年生は卒業に向けて多くのことに取り組みますが、それが帳面消しにならないよう、そこに学びがあるようにしていきたいものです。しかも、これから卒業までの期間は、中学校に入学するまでの、心身の準備期間とも言えます。中学校では、自己中心、甘え等の言動は、今以上に通用しなくなり、努力継続が求められます。小中学校は、自己決定、自己解決、努力の継続、自己責任を体験することのできる大切な学びの場所です。保護者の皆様も、お子様の言動を鑑みたり、無条件に擁護したりしている、しつぱ返しがあるかもしれません。少し子ども達を突き放す姿勢が必要になってきます。これは私の経験則として断言できることです。目標に向かって努力する習慣を付けていくことは、将来的にどのような場面でも役に立ちます。

### シリーズ「自分を語る」#01

病気ケガの話題を一旦ストップしまして、その他について書いてみたい。

平成10年度の夏休み以降は、特に大きな事件もなく過ぎていきました。王女町小3年目というところ、私の名前にはわりと知られていて、行事を楽しみにしている子ども達や保護者がいらつちやうととても有り難い状況でした。私自身も楽しんでいる行事なのに、それを楽にみている方々がいるだけで力も湧いてきます。

平成11年度は5年生を担任させて頂くことになりました。担任発表の日から保護者の皆様より「期待感」の連絡があったことを思い出します。この頃から今まで以上にエネルギー活動するようになった、思いついたことを即行動に移すという具合で、他の先生方には少々迷惑をお掛けしたと反省しています。また「慎重」「丁寧」という頑固が弱かったのが、保護者の皆様には感謝をおかけすることも多かったように思います。それでも支えて下さる保護者の皆様には感謝があまりありません。

この年、私が新規の行事として立ち上げたのが「学校キャンプ」です。キャンプも当然夏休み中に行います。というところは、私が担任させて頂いた学級では夏休み中に2つの大きな行事があることになりました。「キャンプ」と「ナイトハイ」です。この頃はナイトハイに関してはコースも決まっていた、実績もあったのでスムーズに行事が流れていきました。問題はキャンプです。キャンプと簡単に言いますが、ノウハウの無い者にとっては企画段階から大変です。保護者の皆様ご何度かお話し合いをして、ようやく決まった場所は「小岱山」です。自然公園丸山キャンプ場でした。王女町が管理するキャンプ場で、安く使用できるという理由で決定した場所です。このキャンプ場はネットで調べると「上級者向け」「うらへ、何となく苦労したことを思い出します。テントは王女町の社会教育課から借用しました。

当日、保護者の皆さんは借りてきたテントをテントサイトに運び、テント設置と食事の準備。私と一部の保護者、子ども達、なんと「真夏の登山」です。小岱山系の観音堂登山なのですが、これも景色がきれいだからという単純な理由だけで決めました。確かに景色はきれいでしたが、とにかく暑かったのを思い出します。距離が短いので誰も熱中症になるような子どもはいませんでした。考えてみれば少々怖いですね。私も保護者の皆さんも「フリ」で動いていた印象があります。ただ、それだけ学級が子ども達と保護者と担任がしっかりと結束していたということも、紛れもないことだと思います。

このキャンプではキャンプらしい行動は「登山」と「キャンプ・ファイヤ」だけでした。移動と食事の準備に多くの時間を費やし、キャンプらしい言葉はキャンプらしい、でも思い出深いという「キャンプ」と「テントをキャンプ・ファイヤで焦がした」というくらいでした。子ども達も「楽しかった」と言っていました。もう少し活動を多くして、保護者の負担も少なく、食事までできれば作らないでいい、参加しやすいかたちで計画ができればいいものかと考えることになりました。一人でも負担に感じてしまえば続かせられませんからね。(つづく)